

諸外国におけるスポーツ計画及びスポーツ政策分野の評価事例

1. 主要諸外国におけるスポーツ計画の評価事例

以下では、主要諸外国（韓国、フランス、イギリス、オーストラリア、カナダ及びニュージーランド）におけるスポーツ政策所管官庁、スポーツ計画の概要及びスポーツ政策分野において設定されている業績指標について整理する。

(1) 韓国におけるスポーツ計画の評価

■計画・評価の概要

韓国における近年のスポーツに関する政策、計画には、前イ・ミョンバク政権における「文化ビジョン 2008～2012」が該当する。「文化ビジョン 2008～2012」は文化、コンテンツ、観光・スポーツ政策に係る基本方針を示したものであり、スポーツ分野を含む 6 つの戦略目標で構成されている。

同ビジョンでは、“楽しむ韓国人、スポーツで興に乗る国”というテーマの下、“スポーツ強国”からさらに飛躍し、スポーツ精神とスポーツの興を通じ、国民が健やかな生活を享受することができる“スポーツ先進国”となることを目標（戦略目標V）としている。スポーツ政策の重点課題として「体育活動の参加条件の改善」、「体育に親しみを感じる教育環境」、「参加者がともに楽しむことができる体育活動」、「世界の中の韓国スポーツ、スポーツ産業の競争力強化」、「エリート・スポーツの国際競争力強化」、「体育行政を推進する体制、システムの先進化」の 7 つの重点課題が設定されている。

現パク・クネ政権では、「スポーツビジョン 2018」がスポーツ政策単独の方針文書として策定された。「スポーツビジョン 2018」では、スポーツで大韓民国を変えるための 4 つの戦略が設定されている。まず、生活体育への参加率は次第に増加しているが、運動に全く関与していない国民が半数以上の点を踏まえ、「手に届くスポーツ」を作り、国民全てが習慣のようにスポーツに参加する環境を造成し、2013 年現在の 43% の生活体育への参加率を 2017 年までに 60% まで引き上げる計画である。第二に、出生率の低下に起因する選手資源の減少、裾野が脆弱な逆ピラミッド型の選手の需給構造、国際スポーツ界の影響力向上などの問題を解決し、「スポーツ育成・発展の土台」を作り、これにより、スポーツのグローバル競争力を強化し、国家ブランドの向上を達成する計画である。そして第三に、スポーツ産業の市場競争力が低い状況にあるため、融合化・複合化されたスポーツ産業の創出とスポーツ創業支援などを通じて「経済を活性化するスポーツ」を育成し、これを通じ、スポーツの産業規模を 37 兆から 53 兆へと引き上げて雇用 4 万人を創出する計画である。最後に、全ての政策を可能にするために、体育可能競技団体と地域生活体育会などのスポーツ行政の基盤を改善し、「スポーツ公正委員会」の設置など、公正性を確保するための解決策が用意されている。これらにより、スポーツの可能性を最大化して、スポーツ

で社会と国の品格と未来を変えることで、大韓民国を変える力にしようとするものである。

■評価指標

以下では、「文化ビジョン 2008～2012」及び「スポーツビジョン 2018」に掲載されている指標を整理する。指標はアウトカムその他、アウトプット、インプットも確認できる。

○文化ビジョン 2008～2012

「文化ビジョン 2008～2012」の中では、計画に対する評価や期間内の中間見直しは実施されていない。しかしながら、文化体育観光部の2012年度の中央官署別成果報告書において、スポーツ政策の「戦略目標V:奮い立つスポーツ韓国の実現」の成果について、その達成状況についての報告が示されている。以下、同報告書に掲載されている指標を整理する。

表 4-1 「戦略目標 V:奮い立つスポーツ韓国の実現」の指標

<p>【政策目標: スポーツの生活化を実現する】</p> <ul style="list-style-type: none">・生活体育参加満足度達成率・一人当たり体育施設面積 <p>《管理課題: 生活体育活性化》</p> <ul style="list-style-type: none">・体育指導者養成人数・体育指導者一人当たり養成費 <p>《管理課題: 体育振興施設支援》</p> <ul style="list-style-type: none">・公共スポーツ施設の増加率・公共スポーツ施設の利用率・公共施設の利用者の満足度 <p>《管理課題: 生活体育団体支援》</p> <ul style="list-style-type: none">・体育施設活動への参加率 <p>《管理課題: 市道生活体育支援》</p> <ul style="list-style-type: none">・生活体育指導の受益者の継続的スポーツ活動への参加率・生活体育指導の受益者満足度・スポーツバウチャー利用者の受益者満足度 <p>《管理課題: 生活体育施設支援》</p> <ul style="list-style-type: none">・施設利用率・利用者満足度 <p>【政策目標: 世界的水準の競技力向上を図る】</p> <ul style="list-style-type: none">・主要国際大会のメダル獲得率 <p>《管理課題: 国家代表選手支援》</p>
--

・競技力向上率
《管理課題： 大韓体育会支援》

- ・候補選手の国家代表選抜率
- ・優秀選手発掘指数
- ・競技力向上率

《管理課題： 体育会福祉事業》

- ・受益者の満足度
- ・年金受給者

《管理課題： 学校体育育成》

- ・スポーツ講師に対する受益者の満足度
- ・スポーツ講師配置比率
- ・学生選手の授業参加水準

【政策目標： スポーツの産業化及び世界化を通じて国家ブランドを向上する】

- ・主要な国際機関の役員数
- ・スポーツ産業市場規模

《管理課題： スポーツ産業育成》

- ・試験を受ける者一人当たりの試験認定件数
- ・スポーツ用品博覧会参加者の平均輸出額

《管理課題： 国家体育実力強化》

- ・戦略的な交流の比率（体育協定の締結、体育契約のフォローアップ、スポーツパートナーシッププログラムの全体件数のうち、戦略的な種目の支援割合）
- ・国際機構インターン数
- ・ドーピングコントロールセンターの WADA（世界・アンチ・ドーピング機構）再公認可否

《管理課題： 国家体育支援》

- ・開催国際大会優秀選手参加率
- ・ドーピング防止委員会顧客満足度調査
- ・テコンドー平和奉仕団国際派遣国現地参加者数
- ・テコンドー公園建設進展率

《管理課題： 体育科学研究支援》

- ・論文掲載完遂率
- ・適時な課題/体育研究課題率

《管理課題： 基金造成事業・施設建設》

- ・ゴルフ場事業推進率
- ・テコンドー常設公演会場工程率（累積投資額／総事業費）

《管理課題： 体育産業育成融資》

- ・ 受益者満足度
- ・ 経営安定化率

《管理課題： スポーツ科学技術開発基盤構築》

- ・ 国内外特許出願及び登録件数
- ・ 製品化成功率
- ・ 開発された技術を活用する機関の満足度

【政策目標： 障害者体育活動を活性化する】

《管理課題： 障害者スポーツ振興》

- ・ 障害者代表選手の競技向上度

《管理課題： 障害者スポーツ育成》

- ・ 障害者体育支援事業満足度
- ・ 障害者生活体育指導者配置地図の受益者数（障害者生活体育指導者配置地図を活用した受益者数の合計）

○スポーツビジョン 2018

スポーツビジョン全体の目標は 2017 年を目標年次に以下のように設定されている。

表 4-2 スポーツビジョン 2018 の指標

目標（2017 年）：

◆スポーツで社会を変える

生活体育参加率 43.4%（2013 年）⇒013（2017 年）

◆スポーツで国の品格を変える

世界で上位に入る競技力

国際スポーツ界の中での立場を強化

◆スポーツで未来を変える

スポーツ産業の規模 37 兆ウォン（2013 年）⇒01 兆ウォン（2017 年）

スポーツ産業における人口 23 万人（2013 年）⇒01 万人（2017 年）

また、推進戦略と推進課題には成果指標が設定されている。

推進戦略と推進課題：

◆手に届くスポーツ

- スポーツ参加拠点の思案
- スポーツ参加施設の拡充

- スポーツ情報提供の拡大
 - スポーツ参加誘引の拡大
 - 指導者、働き口の創出及び専門性の引き上げ
 - 対象に合わせた支援の拡大
- (手に届くスポーツの成果指標)
- 総合型スポーツ・クラブの拡充 (2013年9か所→2017年229か所)
 - 利用者数 (2013年3,600人→2017年91,600人)
 - 国民体力認証制度により認証された国民数(2013年4万9千人→2017年100万4千人)
 - 生活体育指導者の拡充 (一般・老人:2013年2,230人→2017年2,730人)
 - 障害者 (2013年230人→2017年600人)
 - 体育館 (2017年までに900か所)
 - 公共体育施設の改修・補修400か所
 - 低所得層などを対象にしたスポーツ教室の拡大 (2013年274か所→2017年680か所)
- ◆根強いスポーツ
- 選手の底辺の拡大
 - 選手の人権、福祉の強化
 - スポーツ科学の基盤の強化
 - 国際スポーツ人材の養成及び進出支援
 - スポーツ国際協力の先導
 - 国際大会の効果性の引き上げ
- (根強いスポーツの成果指標)
- 体育英才や青少年代表の養成拡大 (2013年2,550人→2017年4,200人)
 - スポーツ人の人権及び福祉強化
 - 国際スポーツ機構の担当職員への進出拡大 (2013年96人→2017年115人)
 - テコンドーの師範の派遣 (2013年19カ国19人→2017年70カ国80人)
 - ドリームプログラム (2013年39カ国163人→2017年45カ国180人)
- ◆経済を生かすスポーツ
- スポーツ融合・複合市場の創出
 - スポーツ産業の需要の創出
 - スポーツ創業、働き口の支援
 - プロスポーツの活性化の支援
 - スポーツ観光の資源化
 - スポーツサービス業の活性化

(経済を生かすスポーツの成果指標)

- 実感型仮想スポーツ市場規模 3.5 兆ウォン拡大
- 国内スポーツブランドの市場占有率 26% (2013 年) →3%ポ (2017 年)
- スポーツ企業 300 社創業支援、2 万件の就職口の創出、2000 人就業達成
- プロ球団の収益改善、スポーツ無形資産担保の貸出の推進

(2) フランスにおけるスポーツ計画の評価

■計画・評価の概要

フランスでは、2012 年 6 月 12 日の政府組織再編により、スポーツ青少年社会教育市民活動省がスポーツ政策を担当している。スポーツ計画は、1999 年に制定された法律に従い 2002 年に策定された、約 20 年スパンの長期計画「スポーツ総合サービス計画」(schema des services collectifs du sport, SSCS) が存在していると考えられるが、現時点で、この計画についてウェブサイト上では確認できていない。他方、現状では「持続可能な国家政策」という基本コンセプトのもとで、そのスポーツ版として 2011 年 5 月 3 日に作成された「スポーツの持続的発展に関する国家戦略 (SNDDS: Stratégie nationale du développement durable du sport)」が存在する。但し、その内容は、主に自然環境・資源の保護という観点から、どのような持続的な発展を目指すべきかを示したもので、スポーツ政策の方針を示しているものではないようである。

一方、フランス政府の予算は、2001 年の予算法に関する組織法 (Loi organique relative aux lois de finances: LOLF) により、政策体系、予算体系、評価体制の一本化を図っており、予算審議の実質化と業績 (年次業績報告書: RAP と年次業責計画書: PAP) に基づく行政マネジメント手法 (目標設定、施策の算定、予算編成、計画の実行、成果検証、次期政策への予算の反映) が導入されている。より具体的には、予算構造は費目別ではなく、ミッション、プログラム、アクションの政策目的別となっている。スポーツ政策は、プログラム第 219 に位置付けられており、6 つの目標、15 の業績指標が設定される。

■評価指標

以下、2013 年度年次業績計画 (PAP) のミッション「スポーツ・若者・交流」(Projets annuels de performances 2013 : Sports, jeunesse et vie associative) を基に整理する。

<プログラム「プログラム 219 スポーツ」の体系>

- ・このプログラムは、4 つのアクションで構成されている。

表 4-3 2013 年度年次業績計画（PAP）のミッション体系

<p>01 最大多数の人々のためのスポーツの振興（Promotion du sport pour le plus grand nombre）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの教育的側面、社会への普及という面での役割を強化し、特にスポーツ・クラブにおける運動・スポーツの振興を図る。特に学校に通う子供・若者、社会的弱者、女性、障害者などスポーツから遠ざかっている人々を対象とする。
<p>02 高水準のスポーツの発展（Développement du sport de haut niveau）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いレベルの競技会やスポーツ優秀コースの準備の支援、スポーツの大会などの実施における国の関与、高水準スポーツ選手（（ハイレベルスポーツ選手）のプロへの転向・個人レベルでの援助・引退に関する支援などを行う。
<p>03 スポーツによる健康維持とスポーツ選手の保護（Prévention par le sport et protection des sportifs）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる健康維持、スポーツ選手の健康診断、ドーピングの防止、研究と不正取引対策、運動・スポーツの実践の条件と枠組みの規定と管理、スポーツにおける暴力の防止と対策、ドーピング防止対策機関の創設など。
<p>04 スポーツに関する職業の振興（Promotion des métiers du sport）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの様々な側面を勘案し資格の必要性を見定める。また、様々な職業部門のニーズに合わせた資格の設置と管理、専門教育活動の実施と管理など。

<指標>

- ・指標は、一つの目標に複数の指標が対応する形で設定されている。指標は、スポーツランキング、プロスポーツ選手の割合等のアウトカム、スポーツ施設の配置、検査件数等のアウトプット、給付金額別の配分等のインプット指標が設定されている。

表 4-4 2013 年度年次業績計画（PAP）の指標

<p>○目標 1：優先対象グループの人々に注意を払うことにより、特にスポーツ・クラブにおけるスポーツの実践を盛んにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標 1.1：スポーツ連盟によるライセンス（資格）の付与：付与数と優先対象グループにおける取得比率 ・指標 1.2：CNDS（centre national pour le développement du sport：国立スポーツ振興センター）から地域部門への給付金額別の助成金配分 ・指標 1.3：CNDS の地域部門予算のうち優先対象グループに当てられた割合 <p>○目標 2：スポーツ連盟の財政を引き締め、効率性を向上する</p>
--

- ・指標 2.1：財政状況が「脆弱」である、あるいは「悪化」しているスポーツ連盟の数（スポーツ省から助成を受けているスポーツ連盟のうち、財政的に困難な状況にあるもの）
 - ・指標 2.2：スポーツ連盟の財政自律の状況
- 目標 3：全国にスポーツ施設がバランスよく配置されるようにし、計画的な施設整備を促す
- ・指標 3.1：全国におけるスポーツ施設の配置（人口に対するスポーツ施設の数、全国平均の 80%よりも低くなっている県の数）
 - ・指標 3.2：CNDS の設備助成金のうち、設備の不足している県に付与されている割合
- 目標 4：スポーツ大国としてのフランスの位置付けを強化する
- ・指標 4.1：フランスのスポーツランキング
 - ・指標 4.2：「高水準スポーツ選手」のうち、スポーツ施設ネットワークに参加する割合
- 目標 5：スポーツにおける倫理の尊重を促し、選手の健康を守る
- ・指標 5.1：高水準スポーツ選手あるいはその志望者のうち、当該年に義務付けられたメディカル・チェックを全て満たした者の割合
 - ・指標 5.2：ドーピング検査とその分析にかかった平均費用
 - ・指標 5.3：行われた全検査のうち、試合以外の場での検査件数の割合
- 目標 6：公共サービスの使命として競技者の就業とトレーニング活動を支援する
- ・指標 6.1：資格取得者のうち、資格取得後にその資格と関係のある職業についている人の割合
 - ・指標 6.2：スポーツ施設ネットワークが提供する教育課程のうち、重点部門である「コア活動」に対応するものの割合
 - ・指標 6.3：ハイレベルスポーツ選手のうちプロスポーツ選手になる割合

(3) イギリスにおけるスポーツ計画の評価

■計画・評価の概要

イギリスのスポーツ行政は、文化メディアスポーツ省が所管し、実施機関であるスポーツイングランド、UK スポーツ、UK アンチ・ドーピング、スポーツ競技場安全機関を中心に展開されている。イギリスのスポーツ計画としては、2008 年に策定された「勝利を楽しむ:スポーツの新時代 (Playing to win: A New Era for Sport)」があり、同計画では「定期的なスポーツ活動の参加者を 4 年間で 100 万人増加させる」、「学校から世界トップレベルへの育成を滞りなく行えるような制度を設立する」、「スポーツ活動を行う全ての機関がそれぞ

れの役目を果たすようにする」、という目標が掲げられている。しかし、同計画の評価は確認できない。

また、省庁レベルでは、現キャメロン政権で導入された経営計画 (Business Plan) があり、省全体において取り組むべき優先事項、業績指標が設定されている。

その他、実施機関も年次報告書等を通じて、毎年、定期的に業績評価を行っている。

■評価指標

以下では、スポーツ関連分野の評価指標として、「勝利を楽しむ:スポーツの新時代」の目標、経営計画の指標のうちスポーツ分野のもの、実施機関における業績指標を整理する。指標はアウトカムを中心に、アウトプット指標、インプット指標も確認できる。

○勝利を楽しむ:スポーツの新時代

同計画では 2017 年に達成すべきビジョンが分野別に示されている。ただし、同計画の評価は確認できない。

表 4-5 勝利を楽しむ:スポーツの新時代の達成すべきビジョン

(体育、学校スポーツ)
・世界的水準の体育、学校スポーツの実現
・15-16 歳に対して毎週 5 時間の体育、スポーツの機会提供
・16-19 歳に対して毎週 3 時間のスポーツの機会提供
・学校スポーツシステムにおける競争促進とコーチング向上
(コミュニティ)
・世界的水準のコミュニティ・スポーツ・システムの実現により毎年の参加者の拡大
・16 歳での退学の縮減
・高水準のスポーツ・クラブ、才能の発掘の促進
・世界水準の指導施設
(エリート・スポーツ)
・2012 年のオリンピック、パラリンピックの獲得メダルを 2016 年大会でも維持
・ロンドン・オリンピックへの 4 億ポンド以上の投資
・世界水準のコーチングを含むエリート・スポーツのための施設の継承

○文化メディアスポーツ省の経営計画の指標のうちスポーツ分野のもの

経営計画 (2012-15) に掲げられているスポーツ分野のインプット指標、インパクト指標は以下の通りである。

表 4-6 経営計画（2012-15）の指標

<p>(インプット指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校におけるスクールゲーム参加生徒一人当たりに対する公的資金支援額 オリンピック、パラリンピック大会の予算執行を予定通り予算の範囲内で執行しているか。 <p>(インパクト指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツに参加する子どもの割合
--

○実施機関における業績指標

(スポーツイングランド)

スポーツイングランドは、イングランドにおける草の根スポーツの振興と、スポーツ・タレント育成のための経路の構築を所管しており、同機関の年次報告書には、「週に一回、少なくとも 30 分間の適度に負荷のある運動を実施している人数（割合）」を指標にしている。

(UK スポーツ)

UK スポーツは、エリート・スポーツ政策を所管しており、同機関の年次報告書にはオリンピック、パラリンピックにおけるメダル獲得数を業績目標に掲げている。

表 4-7 UK スポーツの業績指標

目的	2012/2013 年実績目標	指標
<p>実績 ロンドン・オリンピックで、北京オリンピックよりも多くの種目において多くのメダルを獲得し、メダルの個数ランキング 4 位以内に入ること</p>	<p>2012 年ロンドン夏季オリンピックスポーツにおける、合意されたメダルの個数の範囲において目標を達成すること</p>	<p>少なくとも 12 種目で、48 個以上のメダルを獲得する（範囲は 40-70 個）</p>
<p>実績 パラリンピックにおいて、より多くの種目でより多くのメダルを獲得し、メダルの個数ランキング 2 位以内に入ること</p>		<p>少なくとも 12 種目で、102 個以上のメダルを獲得する（範囲は 95 - 145 個）</p>
<p>世界選手権 2012 ロンドン・オリンピックと、2014 グラスゴウ・コモンウェルスゲームを、イギリスが世界大会の主要なホスト国となるために用いること</p>	<p>イギリスが、10 か年国際大会指標において、常に上位 3 位以内を維持すること</p>	<p>上位 3 位以内</p>
<p>管理体制 UK スポーツ／スポーツイングランドのガバナンス枠組みを実施することによって、公平さと多様性を含む、NGB（National Governing Bodies）の管理体制を改善する。</p>	<p>UK スポーツより資金提供を受ける NGB やパートナーの 85 パーセントが、（独自に監査された）青信号あるいは黄色信号の自己評価指標を持っていること</p>	<p>85%</p>

合併 文化メディアスポーツ省 (DCMS : Department for Culture, Media & Sport) と協働し、2013年4月までに、UK スポーツ/スポーツイングランドの再編成を終了すること	再編成の提案に対する大臣の署名	2013年3月
	2013/14年における KPIs の再編成が計画され合意されている	
	NGBs の、唯一の管理体制の計画	2012年4月
	イギリススポーツ市場調査局がとりうる選択肢を概観した報告書の作成	2012年5月
	合同 IT プログラム委員会の設立と、共有された場所における IT サービス戦略の監視	2012年7月
	共同配置戦略が合意されていること	2012年10月
	それぞれの才能のある選手に対する戦略と、関係する投資に対する合意されたアプローチ	2012年12月
	2013年4月から貯蓄をするための、(後方部門における) 共有されたサービス戦略の立案	2013年3月
	9つ以上の、UK スポーツ世界大会プログラム (2012-2019) において、参加者を最大化すること	特定された大きな大会
スポーツコーチ UK と、関係する NGB を含む、共同パートナーシップの管理運営の改善	2013年3月	

資料) UK Sport (2013年)“Annual Report and Account 2012/13”

(4) オーストラリアにおけるスポーツ計画の評価

■計画・評価の概要

オーストラリアでは、2011年12月～2013年8月の間は「地域開発地方自治体芸術スポーツ省」がスポーツ政策を所管していたが、2013年9月以降は省庁再編により「保健高齢化省」が所管している。現保健高齢化省が策定したスポーツ計画は確認できない。

連邦政府は2010年に、2010 - 2011年度予算の一部として「オーストラリア・スポーツ：成功への道 (Australian Sport: The Pathway to Success)」を発表し、それに基づき様々な取組が展開されていた。この「成功への道」では、変革の必要性を説いた上で、スポーツ参加や競技力向上などについて新たな取組が示されている。具体的には、参加率の向上に関しては、教育を通じた子どもたちのスポーツ参加率の向上、全ての地域社会メンバーの参加率向上のためのスポーツ組織支援、障害をもつ人々の参加支援、女性のスポーツ参加の障壁の除去、先住民族の参加促進、活動の場の確保などを掲げている。競技力向上では、エリート・スポーツ指導者の維持と養成、国際競技会への参加支援、エリート選手への財政援助、トレーニング環境の更なる充実、スポーツ研究センターやスポーツ・アカデミーの再編成、アンチ・ドーピング活動の継続などをあげている。但し、同計画の評価は未だ実施・公表されていないようである。

一方、オーストラリア政府の予算は、アウトカム・アウトプットの体系により構成されており、議会に提出されるポートフォリオ予算要求書 (Portfolio Budget Statement) の中で、達成すべきアウトカム、設定したアウトカムの達成状況を示す業績目標、アウトカムの達

成に必要なアウトプット、アウトプットの達成状況を示す業績目標、を設定することが求められている。スポーツ分野の政策は、ポートフォリオ予算書に掲載されている。

また、スポーツ政策の実施機関であるオーストラリア・スポーツ・コミッション (Australian Sports Commission : ASC) の戦略計画 (ASC Strategic Plan 2011-12 to 2014-2015) でも、「スポーツの参加者拡大」、「国際的なスポーツの活躍」、「持続可能なスポーツ政策」、「オーストラリア・スポーツ・コミッションの能力拡大」の 4 分野においてアウトカム目標が設定されている。

■評価指標

以下では、スポーツ関連分野の評価指標として、「ポートフォリオ予算書 (2011-2012) 」、「オーストラリア・スポーツ・コミッション (ASC) の戦略計画」に掲載されている指標を整理する。指標はいずれも、スポーツ参加者数、メダル獲得数、満足度等のアウトカム指標である。

○ポートフォリオ予算書

2011-2012 のポートフォリオ予算書には次の 2 つのアウトカムが示されている。

表 4-8 2011-2012 のポートフォリオ予算書のアウトカム

<ul style="list-style-type: none">・アウトカム 1: リーダーシップの向上と指定されたコミュニティベースのスポーツ活動の振興などを通じて、地域社会レベルで分野別に組織的に構造化されたスポーツ活動、特に組織的なスポーツへの参加の拡大・アウトカム 2: リーダーシップとターゲットを絞った科学研究によって有能な選手やコーチの養成を行い、国際的に継続して活躍し続ける卓越したスポーツにおける勝利の実現

・以下、各アウトカム分野に設定されている業績指標を示す。

表 4-9 2011-2012 のポートフォリオ予算書の指標

(アウトカム 1)
<ul style="list-style-type: none">・スポーツ活動への参画を促す Active After-School Communities Program (放課後に行われる小学生向けの無料スポーツ教室プログラム) への子どもの参加率・スポーツ・クラブ、チームへの参加に興味を示した Active After-School Communities Program に参加した子どもの割合・鍵となる業績指標を達成した競技統括団体 (National Sporting Organizations) の割合・スポーツ活動への参加者の拡大のため、特定の戦略、プログラム、アプローチを採用した参加者に対して財政支援をした競技統括団体の数

- ・財務的に健全な競技統括団体の割合
- ・効果的な計画、業績モニタリングを確立した競技統括団体の割合
- ・オーストラリア・スポーツ・コミッションのセクターにおけるリーダーシップに満足したセクター・パートナーの割合
- ・スポーツ活動の参加者拡大に向けたオーストラリア・スポーツ・コミッションの国家戦略、ガイド、ツール、資源に関するイニシアティブに合意したセクター・パートナーの割合
- ・結果的にオーストラリアのスポーツ分野の知識、事実のシェア拡大に貢献したオーストラリア・スポーツ・コミッションのイニシアティブに合意したセクター・パートナーの割合
- ・計画及びモニタリング・プロセスに参画して満足を得た州政府、地域組織、競技統括団体の割合

(アウトカム 2)

- ・ベンチマークしたイベントにおいて、政府、関係機関等の支援を受けたオーストラリアのアスリートが獲得したメダルの割合
- ・鍵となる業績指標を達成した競技統括団体の割合 (再掲)
- ・オーストラリア・スポーツ・コミッションによるパフォーマンスの高いプログラムの提供に向けた能力開発イニシアティブに満足した競技統括団体の割合
- ・高水準パフォーマンス・ネットワークの支援に満足した競技統括団体の割合
- ・プログラムの実施において結果的に知識、事実のシェアに貢献したオーストラリア・スポーツ・コミッションのイニシアティブに合意した州政府、地域組織、競技統括団体の割合
- ・計画及びモニタリング・プロセスに参画して満足を得た州政府、地域組織、大学の割合

○ASC 戦略計画

オーストラリア・スポーツ・コミッションの戦略計画には、目標の柱ごとに成果とそれを測る指標が設定されている。

表 4-10 オーストラリア・スポーツ・コミッションの戦略計画

(スポーツの参加者拡大)

【成果】

- ・より多くのオーストラリア人のスポーツへの参加
- ・少数グループ (マイノリティ) のスポーツ参加者の拡大

【指標】

- ・定期的にスポーツに参加している人口割合
- ・少数グループ（マイノリティ）のスポーツに参加している人口割合

（国際的なスポーツの活躍）

【成果】

- ・長期的な視点に立った国際的に活躍する選手の育成

【指標】

- ・オリンピック、パラリンピック、コモンウェルスゲームにおけるメダル獲得数
- ・世界選手権、ワールドカップ等のベンチマーク・イベントにおける世界ランキングと結果
- ・世界水準、国際クラス及び世界水準到達に近いアスリート、チーム数

（持続可能なスポーツ政策）

【成果】

- ・競技団体が、メンバー、関係者により合意されたアウトカム達成に向けての能力、実行力を有する。
- ・スポーツが評価され、意義あるものとされる。
- ・セクター・パートナーの活動が統合的、協力的である。

【指標】

- ・競技団体の組織運営の状況
- ・競技団体は公平、安全、倫理的で包括的な環境にあると評価する人の割合
- ・国家、州の戦略計画と一体化している競技団体の割合

（オーストラリア・スポーツ・コミッションの能力拡大）

【成果】

- ・オーストラリア・スポーツ・コミッションの業務運営能力、組織文化は戦略計画の実行を可能とする水準となっている。

【指標】

- ・オーストラリア・スポーツ・コミッションのセクターにおけるリーダーシップに満足しているセクター・パートナーの割合
- ・オーストラリア・スポーツ・コミッションのサービスの質、アドバイスに対する顧客満足度

(5) カナダにおけるスポーツ計画の評価

■計画・評価の概要

カナダのスポーツ政策は、民族遺産省（Canadian Heritage）の一部局であるスポーツカナダが所管している。同省は、2012年に「カナダ・スポーツ政策 2012（The Canadian Sport Policy 2012）」を策定して、2012年～2022年におけるスポーツ政策の方針を示しており、スポーツカナダを中心として、スポーツ関係機関等の取組が明示されている。同計画では、「スポーツへの参画」、「レクリエーション・スポーツの推進」、「競い合うスポーツ」、「国際的に高水準のスポーツ」、「社会・経済の発展に貢献するスポーツ」、を主たる政策の柱に掲げている。

スポーツ計画の評価は、現計画の前の計画である「カナダ・スポーツ政策（2002 to 2012）」を民族遺産省の委託により民間企業であるThe Sutcliffe Group Incorporatedが作成した評価書により確認できる。その他、民族遺産省の監査・評価部門が同省で所管する3つのプログラム（Sport Support Program（SSP）、Athlete Assistance Program（AAP）、Hosting Program（HP））を評価した評価書があるが、これは計画ではなくプログラムを対象にした評価であるので掲載を省略する。

■評価指標

以下、カナダ・スポーツ政策の評価及びカナダ・スポーツプログラムの評価で設定された指標を整理する。

（カナダ・スポーツ政策の評価）

指標には、スポーツへの参加者数、メダル獲得数等のアウトカム指標の他、ワークショップ数、サービスの提供、計画の実施等のアウトプット指標、インフラへの投資額等のインプット指標等も確認できる。

表4-11 カナダ・スポーツ政策の評価の指標

	評価の問い	評価指標
スポーツ参加の拡充		
1	カナダ人の大多数が、質の良いスポーツ活動に参加しているか	特定の年齢層、州、そして準州における、カナダ人のスポーツへの参加率
2	過小評価されたグループにおける参加率は上昇したか	特定の年齢層、州、そして準州における、過小評価されたグループにおけるスポーツへの参加率
3	スポーツ参加率の目標は定められたか	大臣によって認可され、公布された、国としての参加率目標
4	より多くの子供と若者が、学校で、質の良いスポーツ・身体的活動にふれているか	州・準州別、カナダの小・中学校における、週150分以上、質の良い身体的活動に参加している子供の数
5	幼児期における身体的能力の育成について何	連邦・州・準州の政策手段における、身体的基本能力

	評価の問い	評価指標
	らかの対策が講じられたか:省庁間での適切な協力体制は整ってきたか	の必須要素の設定
6	カナダで、身体的基本的能力の育成が、子供の早期発達段階で不可欠な要素として受け入れられているか	身体的基本能力に関するワークショップの数（出席数を含む）
競技力水準の向上		
1	カナダは、最上級の国際競技会において、世界的な結果を出しているか	達成されている実績目標の割合（大臣の認可を受けている主要な試合とスポーツシステムにおいて）
		世界ランキング指標による世界選手権・オリンピックの結果（メダル、メダルポイント、上位8位入賞の数）
		世界選手権、オリンピック、パラリンピックで獲得したメダルの数
		夏季・冬季オリンピック・パラリンピックでメダルを得る可能性のある選手の数
2	才能のある選手層は厚くなったか（才能のある選手の定義は、国際的な舞台（ワールドカップレベル）で競っている選手とする）	レベルの高い選手の増加目標が、どれくらいの割合で達成されているか（大臣が省に与えた目標）
3	アマチュア選手に対する公的な支援は改善されてきたか	（世論調査において）アマチュアのスポーツに対して強い支援の姿勢を示した一般市民の割合
4	より多くの選手が、公平かつ倫理的な方法で結果を残しているか	スポーツ界全体で行われたドーピング検査のうち、陽性であった者の割合
5	カナダ選手権がレベルの高い選手の育成に貢献している度合いがどの程度、上がってきたか	大会の年齢区分がLTADのTrain to Compete（女性15-21歳、男性16-23）に準拠している*
		カナダ選手権に参加する選手のうち、ナショナル・チームに入って国際試合で競う選手の数
6	カナダスポーツセンター（CSC：Canada Sports Centre）によって、必要不可欠なサービス（生活・スポーツとも）が国家に認定された選手に提供されているか	カナダスポーツセンターが国家認定選手に、必要不可欠なサービスを提供している割合
7	必要不可欠なサービスが、州によって認定されている選手に提供されているか（CSCによって異なる）	カナダスポーツセンターは州認定選手に、必要不可欠なサービスを提供している*
8	国家認定選手は、カナダスポーツセンターが提供するサービスに満足しているか	選手による満足度報告*
9	必要不可欠なサービスが、国家認定選手それぞれが選択した言語で提供されているか	スポーツカナダ公的言語計画の実施
10	実績目標は、設定され認可されているか	スポーツの実績目標が公表されている*
11	カナダ・スポーツ検討委員会（ボディウム・カナダ）は、設置、公表、運営されているか	カナダ・スポーツ審査委員会を設置したうえで、公表する議事録を伴う会議を開催*
能力の強化		
1	長期的選手育成計画（LTAD：Long-Term Athlete Development）のモデルは導入されたか	包括的な、LTADのモデルが作られた*
		LTADのモデルを採用、または調整して利用している、競技団体の割合
		LTADのモデル実施に関する競合審査をクリアした、

	評価の問い	評価指標
		競技団体の割合
2	能力に基づく教育と訓練 (CBET : Competency Based Education and Training) が実施されているか	CBET を実施している競技団体の数
3	何人のコーチがナショナルコーチ認定プログラムにおいて CBET に基づいた訓練を受けているか。	CBET に基づいて訓練されたコーチの数
4	選手育成システム全体において、LTAD の基本理念は実施されてきたか	州・準州スポーツ機関 (P/TSO : Provincial/Territorial Sports Organization) と教育機関における、LTAD モデルの実施
5	男性、女性の双方において、資格を持ったコーチの数は増えているか	様々なレベルにおいての、資格を持ったコーチの数(男女別)
6	国家レベルにおいて、フランス語を話す、資格を持ったコーチの数は増えているか	国際レベルで実績を残しているレベルの高い選手を教える、資格を持ったコーチのうち、フランス語を話すコーチの数
7	フルタイムで働いているコーチは、労働環境に満足しているか	フルタイムで働いているコーチの、労働環境に対する満足度 (ジェンダーと言語によって分類)
8	各政府は、スポーツとレクリエーション活動に必要な基本的施設に対して、十分な予算を与えたか	政府によって認可され公表された、スポーツのインフラ・プログラム*
9	各政府が、スポーツとレクリエーションの基本的施設にどのような投資を行ってきたか	政府によって、スポーツとレクリエーションのインフラに費やされた金額
		政府によって、スポーツとレクリエーションのインフラにあてられた基金*
10	データに基づいたスポーツ政策プログラムにおいて、研究は重要な役割を果たしているのか	基本的な研究のために、地方の協議会のプログラムに支払われた金額
		政策立案におけるデータの活用状況
11	ボランティアの数・質そして継続率は改善されてきたか	カナダのスポーツボランティアの数が、維持あるいは増加していること
12	カナダにおける、スポーツイベントと大きな試合の開催目標は達成されたか(国際スポーツイベントの開催における戦略的枠組みによって設定された目標)	10年おきに、2つの大きな複数競技スポーツイベントを行うこと 2年おきに、国際的な単数競技スポーツイベントを行うこと 毎年、単数競技スポーツイベントをカナダで行うこと
13	州・準州スポーツ機関 P/TSO、競技統括団体 NSO、中央スポーツ組織 MSO によって雇われている職員定数 (FTE : Full-Time Equivalent)	州・準州スポーツ機関に雇われている FTE の数
14	実績向上チーム (PET : Performance Enhancement Teams) は実施されているか	オリンピック・パラリンピック競技のうち、効率的に機能している PET が存在する協議の割合 (冬季・夏季どちらも)
連携の推進		
1	政府間・政府内の協力は強化されているか	政府間そして政府内で、カナダ・スポーツ政策の目標に向けてとられたイニシアティブの数
2	保健・司法・社会保障や教育といった政策やブ	スポーツと身体的活動が主要な要素として扱われてい

	評価の問い	評価指標
	プログラムの分野は、スポーツや身体的活動を政策推進の主要な要素として含んでいるか	る政策・プログラムのイニシアティブの数
3	公共政策とプログラム計画の策定に対して、スポーツ機関の参加は増えているか	政府が、スポーツ機関の影響のもとで作った政策やプログラムの数
4	国際的なレベルにおいてカナダがどのように、スポーツとその価値を改善し、スポーツを通して社会発展を進め、そして同時に最先端のスポーツ開発を維持してきたか	カナダの優先目標、国際競技力、ベストプラクティスの共有を促進するために実施された国際的イニシアティブの数（例：相互的合意や関連した活動）
		カナダに影響・支援された国際的スポーツ宣言、代表者会議、政策などの数及びそれらがカナダによって実施されている度合い
		国際的な目標を実現するプログラムに資金拠出した国際的スポーツ活動の数と性質（例：国際的な貢献など）
		カナダ政府の代表者が出席した、国際会議やイベントの数、また、（存在するのであれば）それに付随する活動へのカナダ人の参加者数
5	スポーツ機関と教育機関の間で、より強い関係が構築されたか	スポーツ機関と教育機関の間におけるイニシアティブの数

注) *指標を示す内容の表現ではないが原文表記より忠実に翻訳したものを記載した。

資料) The Sutcliffe Group Incorporated (2010年) “Evaluation of Canadian Sports Policy”

また、上記指標の達成度については以下のように整理されている。

表4-12 カナダ・スポーツ政策の評価結果

	達成	実施中	未達成	不明	達成+実施中の比率
スポーツ参加の拡充	1	2	1	2	50%
高水準競争の向上	10	3	0	2	87%
能力の強化	11	6	0	1	94%
連携の推進	5	3	0	0	100%
	27	14	1	5	87%

資料) The Sutcliffe Group Incorporated (2010年) “Evaluation of Canadian Sports Policy”

(6) ニュージーランドにおけるスポーツ計画の評価

■計画・評価の概要

ニュージーランドのスポーツ行政は、文化遺産省のスポーツ・レクリエーション担当大臣の所管のもと、実施機関(Crown Entity)であるスポーツ・ニュージーランド(Sport NZ: Sport New Zealand)を中心に展開されている。

スポーツ・ニュージーランドは、2003年1月にスポーツ・レクリエーション・ニュージーランド法（the Sport and Recreation New Zealand Act 2002）により、設立されたスポーツ・レクリエーション・ニュージーランド（SPARC: Sport and Recreation New Zealand）を前身としており、2012年2月に設立された。

スポーツ・ニュージーランドは、毎年、7000万NZ\$¹(約56億500万円)を投じて、スポーツ、レクリエーションの振興を図っており、その中核となっているのは、「青少年スポーツの振興」、「草の根スポーツ」、「レクリエーション」、「スポーツ団体の管理統治能力」、「高水準スポーツ」の5分野である。

スポーツ・ニュージーランドは、2009年から2015年までの地域スポーツの振興計画として、「地域スポーツ振興戦略（Community Sport Strategy）2009-2015」を策定している。この戦略の到達目標は、「スポーツへの参加の増大と全ての国民によるボランティア活動を支援する、質の高いコミュニティ・スポーツ提供システムをつくること」である。この戦略では、ターゲットを「青少年」、「ボランティア・指導者」、「提供システム」に絞り、それぞれの目標やそこに到達するための戦略を掲げている。但し、同計画の評価は未だ実施・公表されていないようである。

同計画の他、スポーツ・ニュージーランドの戦略計画（組織として策定する中期計画）も存在する。同戦略計画は2012年から2015年の4年間でアウトカム目標が設定されている。同戦略計画の使命（ミッション）は、「ワールド・クラスの競技者育成システムをあらゆるレベルで構築する。その実現のため、より多くの子ども、大人のスポーツへの参画、関与を実現し、ニュージーランド人の世界クラスでの勝者を排出する。」とされている。そして、同計画に掲げるアウトカム目標の進捗は毎年、年次報告書を通じて公表されている。

■評価指標

以下では、スポーツ関連分野の評価指標として、「地域スポーツ振興戦略（Community Sport Strategy, 2009-2015）」、「スポーツ・ニュージーランド戦略計画, 2012-2015」、「スポーツ・ニュージーランド年次報告書 2012」に掲載されている指標を整理する。指標はアウトカム、アウトプットに区分され、整理されている。

表 4-13 地域スポーツ振興戦略（Community Sport Strategy）

<p>(目標)</p> <p>・高水準のコミュニティ・スポーツ振興システムを構築して、全てのニュージーランド人を対象に、スポーツへの参加、協力の振興を実現する。</p>
<p>(優先分野)</p>

¹ NZ\$1=80.07円で計算(2013年平均レート)

- ・優先分野は、「振興システムの導入」、「子ども、若年層の参画」、「ボランティア、コーチ、その他関係者の育成」の3分野である。

(アウトカム)

- ・スポーツ・ニュージーランドの関係スポーツ機関の能力育成。クラブ、イベントを通じたコミュニティ・スポーツ参画者の拡大。
- ・クラブ、イベントを通じた子ども、若年層（特に小、中学生）の拡大。16～20歳の世代のスポーツ参加者層の拡大。12歳以下の基礎的能力、運動神経の向上。
- ・コミュニティ・スポーツを支援するコーチ、関係職員、管理者等のボランティアの数、質の向上。

(目標)

- ・少なくとも50万人以上の成人が週に一度のスポーツ、レクリエーション活動に参加。
- ・80%の児童、生徒が週に3時間以上のスポーツ・クラブ活動に参加。
- ・100万人以上のスポーツ、レクリエーションのボランティア育成。

○戦略計画 (Strategic Plan)

- ・戦略計画では、以下の3つの分野で2015年までの到達水準としてアウトカム目標を設定している。なお、アウトカム目標の内容は、「世界レベルでの競技者の育成」を除いて、地域スポーツ振興戦略 (Community Sport Strategy) と共通している。

表 4-14 戦略計画の指標

(若年層のスポーツ、レクリエーション活動への参画)

- ・80%の児童、生徒が週に3時間以上のスポーツ・クラブ活動に参加。

(ニュージーランド国民のスポーツ)

- ・少なくとも50万人以上の成人が週に一度のスポーツ、レクリエーション活動に参加。
- ・100万人以上のスポーツ、レクリエーションのボランティア育成。

(世界レベルでの競技者の育成)

- ・世界ランクの競技者、チームの増加

○年次報告書 (Annual Report)

- ・以下、年次報告書2012に掲載されているアウトカム体系を示す。

表 4-15 スポーツ・ニュージーランドのアウトカム体系

戦略アウトカム	若年層	成人	世界レベル
中間アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関のイニシアティブを通じて若年層のスポーツ、レクリエーション活動への参画を拡大 ・関係機関のイニシアティブを通じて青年層のスポ 		<ul style="list-style-type: none"> ・エリート・スポーツ選手の高水準の施設、育成システムへ

	ーツ、レクリエーション活動への参画を拡大 ・関係機関のイニシアティブを通じてスポーツ、レクリエーション活動のボランティア参画を拡大	の参画 ・アスリートのより高水準での活躍	
インパクト (施策等を通じて影響を与えるべき内容)	・若年層のスポーツ能力の習得、活動への参加によって、よりよい環境の提供	・コーチ、ボランティアのよりよい管理と支援	・エリート・スポーツ選手、コーチにとって必要な、より有効な高水準の育成システム
	・成人のスポーツへの参画機会の拡大	・国と地方との支援機関の連携	・世界水準の施設の国内での利用
	・関係機関の組織的能力の拡大		
アウトプット	スポーツ、レクリエーション・プログラム ・政策アドバイス ・技術的アドバイス ・知識と情報の提供 ・投資	高水準スポーツへの投資に関する首相の助成 ・投資 ・アスリート・サービス ・技術的アドバイス	
インプット	スポーツ、レクリエーション・プログラム予算		高水準スポーツへの投資に関する首相の助成予算
	ニュージーランド宝くじ基金		
	能力、技術を持った人材		

- ・以下、アウトカム分野ごとに設定されている指標を示す。指標は、上位の戦略アウトカムと下位の間アアウトカムで整理されている。

表 4-16 スポーツ・ニュージーランドの指標

<p><若年層のスポーツ、レクリエーション活動への参画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5-18 歳の若年層における週 3 時間以上のスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加率 【戦略アウトカム】 ・関連機関の報告による 5-18 歳の若年層におけるスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加数 【中間アウトカム】 ・関連機関の報告による 5-18 歳の若年層における小、中学校でのスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加数 【中間アウトカム】 <p><ニュージーランド国民のスポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年層（16 歳以上）における少なくとも週に一種類のスポーツ、レクリエーション活動者数 【戦略アウトカム】 ・青年層（16 歳以上）における少なくとも年に一回以上のスポーツ、レクリエーション活
--

- 動へのボランティア活動（無給の組織、コーチ）参加者数 【戦略アウトカム】
- ・ 関連機関の報告による青年層（16歳以上）におけるスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加数 【中間アウトカム】

<世界レベルでの競技者の育成>

- ・ (オリンピック・ゲーム水準での) 世界ランキング 3 位以内のアスリート、チーム数 【戦略アウトカム】
- ・ (オリンピック・ゲーム水準での) 世界ランキング 8 位以内のアスリート、チーム数 【戦略アウトカム】
- ・ (オリンピック・ゲーム水準での) 世界ランキング 16 位以内のアスリート、チーム数 【戦略アウトカム】
- ・ (オリンピック・ゲーム水準以外での) 世界ランキング 3 位以内のアスリート、チーム数 【戦略アウトカム】
- ・ 高水準システムの支援を受けているアスリートの割合 【中間アウトカム】
- ・ 各競技団体の高水準課程基準に到達したアスリートの割合 【中間アウトカム】
- ・ 高水準インフラ及びサポート・システムに対する質と利用状況の評価（トレーニング施設、コーチ、補助者、育成計画、財政支援、技術、大会）

- ・ また、以下、分野ごとに設定されているアウトプット指標を示す。

表 4-17 スポーツ・ニュージーランドの指標（アウトプット）

- <アウトプット 1 スポーツ、レクリエーション・プログラム>
- ・ 若年層、青年層の拡大及びエリート・スポーツ養成のためのスポーツ、レクリエーション実施機関に対する支出
 - 80%の関係機関の支出に関する鍵となる指標の達成
 - 3940 万 NZ\$ のコミュニティ・スポーツ、レクリエーション分野への支出
 - ・ スポーツ、レクリエーション実施機関のガバナンス、リーダーシップ、コミュニケーション、人事管理、IT、財務等の能力向上に対する投資
 - 170 万 NZ\$ の関係機関の能力開発のための支出
 - ・ スポーツ、レクリエーション実施機関のイベント、施設に関連したアウトカム達成への支出
 - 170 万 NZ\$ の関係機関の能力開発のための支出
 - ・ コミュニティ・サポート: スポーツ・ニュージーランドによるアドバイス、ガイダンス、支援の提供
 - ・ 能力開発: スポーツ、レクリエーション実施機関のガバナンス、リーダーシップ、コミュニケーション、人事管理、IT、財務等の能力向上に対するアドバイス、ガイダンス、

支援の提供

- ・ イベント、施設: 管理と施設運営を所管する関係者に対するアドバイス、ガイダンス、支援の提供
- ・ スポーツ政策の遂行、スポーツ・ニュージーランドのモニタリングを支える知識、情報の開発と普及
- ・ グット・プラクティスの共有のための知識、情報の開発と普及
- ・ スポーツ・ニュージーランドが提供するリソース、ツール

<アウトプット 2 高水準スポーツ>

- ・ 若年層、青年層のスポーツ参画を通じた世界的水準の競技者育成のためスポーツ、レクリエーション実施機関に対する投資
 - 6280 万 NZ\$ の高水準競技振興への投資
- ・ 競技者育成、プログラムの改善に向けたアドバイス、ガイダンスの提供と支援
- ・ パフォーマンス向上補助金を通じたアスリートへの直接支援
- ・ アスリートに対する運動心理学、バイオメカニクス、コンディション維持、栄養学、生物力学、物理療法、マッサージ、トレーニング計画、アスリートの生活、医学に関する直接支援
- ・ アスリート及び支援者への能力開発の機会の提供

<アウトプット 3 首相のスポーツ助成>

- ・ スポーツ・ニュージーランドによるアスリート、コーチ、補助者養成のための首相のスポーツ助成への投資

(7) 対象6カ国のスポーツ計画の評価において設定されている指標例

以下では、対象国における指標設定状況について、我が国のスポーツ基本計画の7つの政策課題ごとに整理する。以下の表は各国における指標設定状況である。また、次頁は、対象国におけるスポーツ分野の指標一覧である。

表 4-18 対象国における指標設定状況

スポーツ基本計画の政策課題	韓国	フランス	イギリス	オーストラリア	カナダ	ニュージーランド
1. 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実	○	該当なし	○	○	○	○
2. 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進	○	該当なし	○	○	○	○
3. 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備	○	○	○	○	○	該当なし
4. 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備	○	○	○	○	○	○
5. オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進	○	該当なし	○	該当なし	○	該当なし
6. ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上	○	○	該当なし	該当なし	○	該当なし
7. スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	○	該当なし
その他	○	該当なし	該当なし	○	○	該当なし

注) 指標が設定されている政策課題について「○」を記載している。

表 4-19 対象国におけるスポーツ分野の指標一覧

※以下の指標のうち、【インプット】または【アウトプット】の記載のない指標は、全て【アウトカム】である。

スポーツ基本計画	韓国	フランス	イギリス	オーストラリア	カナダ	ニュージーランド
1. 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実	・体育英才や青少年代表の養成拡大	該当なし	・各校におけるスクールゲーム参加生徒一人当たりに対する公的資金支援額【インプット】 ・学校スポーツシステムにおける競争促進とコーチング向上	・スポーツ活動への参画を促す Active After-School Communities Program((放課後に行われる小学生向けの無料スポーツ教室プログラム))への子どもの参加率	・州・準州別、カナダの小・中学校にける、週 150 分以上、質の良い身体的活動に参加している子どもの数 ・身体的基本能力に関するワークショップの数（出席数を含む）【アウトプット】	・80%の児童、生徒が週に3時間以上のスポーツ・クラブ活動への参加 ・関連機関の報告による5-18歳の若年層におけるスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加数 ・関連機関の報告による5-18歳の若年層における小、中学校でのスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加数
2. 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進	・生活体育参加参加率 ・体育指導者養成人数 ・体育指導者一人当たり養成費 ・公共スポーツ施設の増加率 ・公共スポーツ施設の利用率 ・公共施設の利用者の満足度 ・生活体育指導の受益者の継続的スポーツ活動への参加率 ・生活体育指導の受益者満足度	該当なし	・15-16歳に対して毎週5時間の体育、スポーツの機会提供 ・16-19歳に対して毎週3時間のスポーツの機会提供 ・週に一回、少なくとも30分間の適度に負荷のある運動を実施している人数（割合）」	・定期的にスポーツに参加している人口割合	・特定の年齢層、州、そして準州における、カナダ人のスポーツへの参加率	・少なくとも50万人以上の成人が週に一度のスポーツ、レクリエーション活動への参加 ・100万人以上のスポーツ、レクリエーションのボランティア育成 ・青年層（16歳以上）における少なくとも週に一種類のスポーツ、レクリエーション活動者数 ・青年層（16歳以上）における少なくとも年に一回以上のスポーツ、レクリエーション活動へのボランティア活動（無給の組織、コーチ）参加者数 ・関連機関の報告による青年層（16歳以上）におけるスポーツ、レクリエーション・クラブへの参加数
3. 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備	・総合型スポーツ・クラブの数 ・総合型スポーツ・クラブの利用者数 ・生活体育指導者の拡充	・スポーツ連盟によるライセンス（資格）の付与 ・地域部門からの助成金の、給付金額別の配分【インプット】 ・地域部門予算のうち優先対象グループに当てられた割合【インプット】 ・スポーツ連盟の自己資金の比率 ・全国におけるスポーツ施設の配置（人口に対するスポーツ施設の数、全国平均の80%よりも低くなっている県の数）【アウトプット】	・世界的水準のコミュニティ・スポーツ・システムの実現により毎年の参加者の拡大	・鍵となる業績指標を達成した競技統括団体の割合 ・競技団体の組織運営の状況 ・オーストラリア・スポーツ・コミッションのサービスの質、アドバースに対する顧客満足度	・能力基準の教育・育成計画を実施している競技団体の数 ・能力基準の教育・育成計画に基づいて訓練されたコーチの数 ・様々なレベルにおいて、資格を持ったコーチの数（男女両性） ・政府によって認可され公表された、スポーツのインフラ・プログラム【アウトプット】 ・政府によって、スポーツとレクリエーションのインフラに費やされた金額【インプット】 ・政府によって、スポーツとレクリエーションのインフラにあてられた基金【インプット】 ・カナダのスポーツボランティアの数が、維持あるいは増加している	該当なし
4. 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備	・主要国際大会のメダル獲得率 ・競技力向上率 ・候補選手の国家代表選抜率	・フランスのスポーツランキング ・「高水準スポーツ選手（ハイレベルスポーツ選手）」のうち、スポーツ施設ネットワークに参加している割合 ・ハイレベルスポーツ選手のうちプロスポーツ選手になる割合	・2012年のオリンピック、パラリンピックの獲得メダルを2016年大会でも維持 ・世界水準のコーチングを含むエリート・スポーツのための施設の継承	・ベンチマークしたイベントにおいて、政府、関係機関等の支援を受けたオーストラリアのアスリートが獲得したメダルの割合 ・オリンピック、パラリンピック、コモンウェルスゲームにおけるメダル獲得数 ・世界選手権、ワールドカップ等のベンチマーク・イベントにおける	・世界ランキング指標を用いた、世界選手権・オリンピックの結果（メダル、メダルポイント、上位8位入賞の数） ・世界選手権、オリンピック、パラリンピックで獲得したメダルの数 ・カナダ選手権に参加する選手のうち、ナショナル・チームに入って	・(オリンピック・ゲーム水準での)世界ランキング3位以内のアスリート、チーム数 ・(オリンピック・ゲーム水準での)世界ランキング8位以内のアスリート、チーム数 ・(オリンピック・ゲーム水準での)世界ランキング16位以内のアスリート、チーム数

スポーツ基本計画	韓国	フランス	イギリス	オーストラリア	カナダ	ニュージーランド
				世界ランキングと結果 ・世界水準、国際クラス及び世界水準到達に近いアスリート、チーム数	国際試合で競う選手の数 ・選手による満足度報告	・高水準システムの支援を受けているアスリートの割合 ・各競技団体の高水準過程基準に到達したアスリートの割合
5. オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進	・主要な国際機関の役員数	該当なし	・ロンドン・オリンピックへの4億ポンド以上の投資【インプット】 ・2012 ロンドン・オリンピックと、2014 グラスゴー・コモンウェルスゲームを、イギリスが世界大会の主要なホスト国となるために用いていること	該当なし	・10年おきに、2つの大きな複数競技スポーツイベントを行う ・2年おきに、国際的な単数競技スポーツイベントを行う ・カナダに影響・支援された国際的スポーツ宣言、代表者会議、政策などの数及びそれらがカナダによって実施されている度合い	該当なし
6. ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上	・ドーピングコントロールセンターのWADA(世界・アンチ・ドーピング機構)再公認可否 ・ドーピング防止委員会顧客満足度調査	・「高水準スポーツ選手(ハイレベルスポーツ選手)」あるいはその志望者のうち、当該年に義務付けられたメディカル・チェックを全て満たした者の割合 ・行われた全検査のうち、試合以外の場での検査件数の割合 ・ドーピング検査とその分析にかけた平均費用【インプット】	該当なし	該当なし	・スポーツ界全体で行われたドーピング検査のうち、陽性であった者の割合	該当なし
7. スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	・スポーツ機関と教育機関の間におけるイニシアティブの数	該当なし
その他	・スポーツ産業の規模 ・スポーツ産業での勤め口 ・国内外特許出願及び登録件数 ・製品化成功率 ・開発された技術を活用する機関の満足度	該当なし	該当なし	・競技団体は公平、安全、倫理的で包括的な環境にあると評価する人の割合	・(世論調査において)アマチュアのスポーツに対し強い支援の姿勢を示した一般市民の割合 ・政府間そして政府内で、カナダ・スポーツ政策の目標に向けてとられたイニシアティブの数【アウトプット】 ・政府が、スポーツ機関の影響のもとで作った政策やプログラムの数【アウトプット】	該当なし

2. 主要諸外国における省庁横断的評価の事例

以下では、カナダ、米国における省庁横断的評価の事例の概要について整理する。

(1) カナダ ホリゾンタル・イニシアティブ

カナダ連邦政府では、2つ以上の省が、「共通の成果 (Shared Outcomes)」の導出に向けて、予算支出も含めて協力する枠組みとして「ホリゾンタル・イニシアティブ (Horizontal Initiatives)」がある。この枠組みは複数省庁、機関にまたがる諸政策についての説明責任と業績管理を行うものである。ホリゾンタル・イニシアティブで、パートナーとなりうるのは、基本的には連邦政府の省であるが、連邦政府の実施庁 (agency) や、州政府、NGO 等もその対象となりうる。

表 4-20 「ホリゾンタル・イニシアティブ」の定義

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• ホリゾンタル・イニシアティブは、2以上の省がパートナーとなって正式な支出合意（内閣へのメモランダム、財務委員会への予算要求、もしくは連邦—州間の合意）を締結して、「共通の成果」に向けて協力するものである。• パートナーとしては、これら連邦政府の省に加えて、連邦政府の庁、州政府、地域政府、自治体政府、原住民居住地区、非政府機関、民間機関等も含まれる。• 「共通の成果」は、パートナーとなる省が、協力してプログラムの実施に取り組んで努力した結果として達成したいと想定するものである。この「共通の成果」は、各パートナーの戦略目標の達成に貢献するものでなければならない。 |
|--|

資料) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング (2008年)「カナダにおける複数府省にまたがる政策の評価に関する調査研究」

ホリゾンタル・イニシアティブでは、関係する機関の内の1つの機関が、複数省庁・機関にまたがる諸施策 (イニシアティブ) の全体を統括する役割 (予算要求、政策実施、業績評価・プログラム評価) を担っており、この機関は「リード省 (Lead Department)」と呼ばれている。財政委員会事務局 (Treasury Board Secretariat CANADA: TBS) の資料によると、カナダ連邦政府にて現在実施されている (2013-14) ホリゾンタル・イニシアティブの数は、政府全体で 58 本である。

このホリゾンタル・イニシアティブの評価は、リード省が中核的な役割を果たしており、目標・成果の達成状況は、通常の施策と同様に、毎年作成される年次業績計画書 (Report on Plans and Priorities: RPP)、年次業績報告書 (Departmental Performance Report: DPP) を通じて、評価されている。

なお、カナダ連邦政府でスポーツ政策を所管する民族遺産省のホリゾンタル・イニシアティブとして、2010年冬季オリンピック、パラリンピック (2010 Olympic and Paralympic Winter Games – Delivering on our Commitments) がある。以下、同ホリゾンタル・イニシアティブの成果に関連する概要部分を整理する。

表 4-21 ホリゾンタル・イニシアティブ「2010年冬季オリンピック、パラリンピック」
成果目標等

<p>(成果目標)</p> <p>○最終アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、経済、社会、文化的遺産がカナダ人のために確立される。 ・カナダの卓越性、価値が国内外に示される。 ・カナダが実行力のある、包括的なホスト国として認知される。 <p>○中間アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダ全体で 2010 年冬季五輪に関連するスポーツ、経済、社会、文化活動に関与する。 ・カナダを国内外に広める。 ・カナダ人、各国参加者が安全で質の高いゲームに参加できる。 <p>○初期アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010 年冬季オリンピックの実施に関して政府の優先順位をより高める。 ・2010 年冬季オリンピックの実施におけるカナダ連邦政府の役割に対する認知を深める。 ・連邦政府が実施する義務的、不可欠なサービスを確実に提供する。 <p>(関係省庁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民族遺産省 (リード省庁)、公衆衛生庁 (Public Health Agency of Canada)、保健省 (Health Canada)、人的資源・能力開発省 (Human Resources and Skills Development Canada)、環境省 (Environment Canada)、漁業・海洋省 (Fisheries and Oceans Canada)

資料) Canada TBS(2010年)“2010 Olympic and Paralympic Winter Games – Delivering on our Commitments”
<http://www.tbs-sct.gc.ca/hidb-bdih/initiative-eng.aspx?Org=21&Hi=11>

(2) 米国「クロス・エージェンシー・プライオリティ・ゴール」

米国では、2011 年 1 月に成立した GPRA 近代化法 (Government Performance and Results Modernization Act) により、各省庁では優先度が高い業績目標 (Agency Priority Goals: APGs) を設定し、レビューすることが義務化されることになった。この APGs は、各省庁が大統領予算局 (Office of Management and Budget: OMB)、議会との協議の上で決定するもので、追加的な予算や制度の変更なく実現すべきものとして、2 年間の期限での達成が求められる。また、設定された業績目標の達成度、進捗状況については、四半期ごとに目標単位でレビューすることが求められており、そのレビューについては OMB にも報告されている。

GPRA 近代化法では、上記の省庁レベルでの優先度の高い目標設定の他に、OMB に対して政府横断的な限定されたアウトカム・ベースの目標 (Cross-Agency Priority Goals: CAPGs) の設定も要求されている。この政府横断的な目標は、複数省庁にまたがるテーマ・課題に関するもので、大統領就任の翌年に設定して、以降、これを 4 年毎に更新することとされている。

この CAPGs は、ホワイトハウスが責任を持ち、関係するプログラムを所管する担当者が同席す

る中で、APGsと同様に四半期ごとに目標単位でのレビューを実施することが求められている。このレビューでは、各関連プログラムは目標達成に貢献しているか、また、目標未達成についてのリスク分析、目標未達成に対する改善取組案について検討することになっている。